

地域と協働し、人とのつながりを深めるあいさつ運動

ねがい

〈目的〉

異学年や地域の人と交流を図って望ましい人間関係を築く力を培うとともに、あいさつ運動等を通して自己有用感を高め、児童生徒が学校が楽しいと感じられるようにしました。

〈内容〉

つながり

● あいさつ運動についてクラスで話し合い、自分の役割を明確にする。

学級活動であいさつ運動を盛り上げるために「自分は何ができるか。」を話し合いました。自分のよさや特技を活かして自分の役割を明確にし、友だちと協力することでクラスの一員であるという自己有用感を高めました。

● 交流活動を通して人とつながる喜びを味わいマナーアップへの意識を高める。

あいさつ運動を継続していくと、自主的に参加する姿も見られるようになりました。小学校では、上級生が下級生と手をつないであいさつしたり、一緒にのぼりを持ったりして人とのつながりが次第に深まっていきました。「友だちと一緒にやれば楽しい。」「あいさつを返されるとうれしい。」など、人とつながることの楽しさを体験できたようです。

また、地域の諸団体にあいさつ運動、交通指導や職場体験等で協力をいただき公共の場でのマナーアップへの意識を涵養しました。中学校では、老人施設を訪問したり、婦人会の方々と清掃をしたりして、マナーアップリーダーズを中心に地域に赴いて児童や高齢者とふれあいながらボランティア活動を行い、人の役に立つ喜びを味わうことができました。

● その子のよさや頑張りを賞賛できる場をつくる。

あいさつ運動への積極的な取組に対してカードを配ることで、頑張りを可視化して次への意欲の励みになるようにしました。これは、その子のよさとして友だちから賞賛される場となっています。



【広がるあいさつ運動】



【地域の人とつながるあいさつ運動】



【頑張りを賞賛するカード】

高まり

〈成果〉

一人の力は小さくても、みんなでやれば大きな力が生まれることが実感でき、自分から進んであいさつができるようになりました。また他者とのかかわりが苦手な子もいましたが異学年で活動することで人とつながるよさを味わい、楽しさを体感できました。校門の横を通る中学生も、小学生のあいさつの声に反応して、元気なあいさつを返してくれます。今後は、様々な立場の人と気持ちのよいあいさつが交わせるよう、小中連携して取組を続けていきたいです。

